

## 体験的活動の授業づくり

—新しい授業づくりをめざす若き友人へ—

M先生、その後お元気ですか。初任者研修という、初めての厳しい修業期を終えられ、これからひとりの教師として独立されることを心からお慶びいたします。あなたは、生来の子ども好きに加えて、大学での専門教科や教職科学の幅広い研鑽の基礎のうえに、すばらしい指導者に恵まれて、教育的資質にさらに磨きをかけられたことと思います。さあ、これから一人前の先生ですね。

研修のおりすでに指導を受けられたことと思いますが、今日の教育課題は「自ら学ぶ意欲を高め、社会の変化に主体的に対応できる能力を育成する」ことにあります。主体的に対応できる能力には、思考力・判断力・表現力などの能力が考えられていますが、これらの能力は子どもたちが自ら考え、判断し、表現することに重点をおいた学習活動において育成されるものです。今日、なぜ「体験的な学習」や「問題解決的な学習」が協調されるようになったか、おわかりになるでしょう。ここには、子どもたちが自らの興味・関心を生かして、学習課題に自発的に立ち向かっていくような、主体的な学習への構えへの転換が意図されているのです。教師自身も、そのような学習指導の体制へと、自らの指導の構えを変えなければなりません。むかしの、教師が教科書に書かれていることがらを絶対の「真理」のように、子どもたちに伝授していた授業方式では、今期待されているような子どもを育てることはできません。

ご存じのように、私たちは昭和63年の夏より、「自己を豊かに創造する子どもを育てる学習指導」という研究主題をかかげて、3カ年間骨身をけずるような研究に取り組んできました。それは、今述べたような今日の教育課題に真正面から応えようとしたものでした。この著書『体験的活動の授業づくり』は、この取り組みのささやかな成果をまとめたものです。あなたのような、多くの若い先生がたに是非とも読んでいただきたい、できればこれからの授業づくりの糧にしていいただきたいとの悲願のもとに、研究著書の公刊という従来の堅苦しい形式をとらずに、読みやすくわかりやすく書こうと心がけてきました。でも、表面には出なくても、それぞれの文章の背後には、彫琢された理論という一本の鉦脈が流れていて、それぞれの論述を支えている。そのような構想は失うまい、とも心がけてきました。この主旨がどれほど生かされているのか、それはこの書を読まれるあなたの判断に委ねざるを得ません。

研究というものは、それが個人の研究であっても、実に多くの人々の切磋琢磨、励まし、支援、援助によってなるものだということを、研究同人の仲間と一緒に学びあっていくなかで体験しました。大学の指導教官の先生がたは勿論のこと、本校の先輩がたの叱咤激励は大変なものでした。後輩への一途な思いやりの現れでしょうね。大先輩のはらえいいち先生は、出版社への仲介の労を取ってくださったばかりでなく、最後には原稿全体に目を通してくださいました。また、元校長の大賀一夫先生には、いつもかわらず快く序文を書いていただきました。そして、この研究が日の目を見ることができたのは、明治図書、特に編集部の江部満氏と樋口雅子氏のご配慮があったからです。このように多くの方々の支えをありがたいことだ、とただただ感謝するばかりです。

教師として独り立ちするあなたへ、この著書を読んでどうかあなたの意見や感想を私たちへ伝えてほしい。そして、一緒に勉強していきましょう。共に頑張っていきましょう。どうかよろしく願います。

平成3年3月

福岡教育大学附属久留米小学校

校長 林 忠幸